

平成30年度 事業報告書

(自平成30年4月1日～至平成31年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

<概 要>

平成 31 年 5 月 8 日に第 1 回理事会を開催し、平成 30 年度の事業報告書の件、収支決算書の件について審議した結果、出席理事全員一致で承認された。

農業教育の発展と振興並びに農業技術の向上を図る事業（公 1）として以下を行った。

全国大会・支部大会での農業教諭による研究発表及び各界のリーダーを招聘しての講演会（東京農業大学地域環境科学部教授 宮林茂幸先生他）を開催した。

また、農業教育研究協議会では農業教育に関する調査・研究成果の発表と協議及び講演会（独立行政法人 農林漁業信用基金 統括調整役 折原 直先生他）を開催した。

農業教育功労者表彰は、全国各支部から推薦のあった候補者を審査委員会で厳正な審査を行い全国 135 名に授与された。

フォーラム、シンポジウム等の開催については、農業女子フォーラムを東北支部が担当して開催の予定であったが支部の事情により次期の開催となったため実施することができなかった。シンポジウムについては、農業高校支援機構との共催のもと、食（Food）と農（Farm）と祭（Festa）⇔3F をキーワードとして、「われわれはどこを目指しているのか」をテーマにオープン・ディスカッションを実施した。教員・研究者・学生はもとより多くの一般市民の参加も得て活発な意見交換が行われ参加者から極めて有意義な会であったと好評を博した。

学術・科学技術の振興を図る事業として、全国 7 地区で農業実験実習講習会を実施した。この講習は教員免許状更新講習(6 地区で実施・80 名/110 名中)の選択領域について文部科学省から認定されており、教員免許状更新講習該当者を含め全体で 110 名の受講者を得た。

農村文化・芸術・文芸に関する事業では、農民文学会との共催による全国農業関係高等学校エッセイコンテストを実施したところ全国から多くの応募があり、静岡県立下田高等学校南伊豆分校 和泉 莉梨樺さんが最優秀賞に輝いた。作品は、農民文学会機関誌、当協会機関新聞、並びにホームページ上に掲載した。

また、日本棚田学会と協賛している農業関係高等学校 農業・農村フォトコンテストには、生徒 72 点、職員 19 点、合計 91 点の応募があり、生徒の部の最優秀賞に群馬県立利根実業高等学校の高山七星さんが、職員の部の最優秀賞に山口県立田布施農工高等学校の福島一生先生が決定した。

以上、当公益財団法人が定款に定める目的を達成するために平成 30 年度に実施した事業並びに調査・研究活動、また農業及び農業教育の充実・振興を推進するためのフォーラムやシンポジウムの開催等の概略をまとめたものである。いずれの取り組みも改善を要する課題はあるものの、外部からの参加者等の評価から前以て想定していた目的は十分に達成することが出来たと思っている。今後もそれぞれの事業や取り組みの検証を怠ることなく組織を挙げて更なる発展と充実を図って参りたいと考えている。

I 会員の動向

1、協賛会員の状況（平成30年5月1日現在）

『地区別協賛会員数』

地区\年度	27年度	28年度	29年度	30年度	増減（前年度比）
北海道地区	401名	406名	403名	402名	—1
東北地区	896名	897名	895名	885名	—10
関東地区	1549名	1543名	1535名	1538名	+3
北信越地区	483名	482名	480名	476名	—4
近東地区	1111名	1106名	1111名	1093名	—18
中国地区	546名	542名	536名	537名	+1
四国地区	397名	402名	397名	394名	—3
九州地区	1321名	1303名	1282名	1280名	—2
本部個人会員	22名	25名	27名	25名	—2
会員総数	6726名	6706名	6666名	6630名	—36

II 各種事業活動の実施報告

1、農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業・・・（公I事業）

1）研究発表及び教育行政・農政・学術・学祭的講演による農業教育を推進する事業

※原則一般公開、開催・内容等は本協会ホームページにて告知する。

（1）講演事業

『全国大会講演』（全国高等学校農場協会と共催）

講演1、「当面する初等中等教育の課題」

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

産業教育振興室長 高見 太也 先生

講演2、「体験学習をととした人材育成」

東京農業大学地域環境科学部

地域創成科学科 教授 宮林 茂幸 先生

『農業教育研究協議会講演』（全国高等学校農場協会と共催）

講演1、「高等学校教育の現状と課題について」

文部科学省初等中等教育局

参事官（高等学校担当） 田村 真一 先生

講演2、「新規就農対策について」

農林水産省経営局就農・女性課

課長 佐藤 一絵 先生

講演3、「日本農業の見方」

独立行政法人 農林漁業信用基金

総括調整役 折原 直 先生

『支部大会講演』（全国高等学校農場協会各支部大会と共催）

- | | | |
|-------|--|----------------|
| 北海道支部 | 「農業と農村の未来を担う人づくり」
北海道指導農業士・農業士釧路地区
連絡会議 会長 | 近藤 英實 |
| 東北支部 | 「"21世紀農業"の担い手を支える
農業高校の経営戦略について」
ヒューマンサイエンス研究所 理事長 | 小林 恵智 |
| 関東支部 | 「土着天敵を利用したIPM技術」
千葉県立農業大学校 准教授 | 清水 敏夫 |
| 北信越支部 | 「GAPの概要と実践について」
石川県農林水産部 農業安全課
有限会社 安井ファーム 代表取締役 | 向瀬 直美
安井 善成 |
| 近東支部 | 「長良川における漁業の現状と
郡上漁業協同組合の取り組み」
郡上漁業協同組合代表理事 副組合長 | 白滝 治郎 |
| 中国支部 | 「GAPの取組について」
株式会社 倉敷きのこ園 代表 | 馬場 伸栄 |
| 四国支部 | 「お待たせしました。いよいよ
農業教育の出番です」
四国の森づくりネットワーク 会長 | 鶴見 武道 |
| 九州支部 | 「世の中に役立つものを
誰よりも先に創る」
株式会社 オーレック 代表取締役社長 | 今村 健二 |

(2) 調査・研究的事業

『全国大会研究発表』

- ・「国際認証教育への取り組み」
青森県立五所川原農林高等学校 教諭 三上 浩樹
- ・「農業を中核に商業・工業と融合した産業を造り、"地域
資源を活かし売れる商品をつくるテクノアグリ"人材
の育成」～若狭東高校におけるSPH事業の取り組み～
福井県立若狭東高等学校 教諭 中林 春男
- ・「環境保全型農業の推進を目的とした研究活動の展開について」
岡山県立高松農業高等学校 教諭 野村 眞史

『支部大会研究発表』（全国高等学校農場協会各支部と共催）

- 北海道支部 「グローバル化や法人化、6次産業化や企業参入等に対応した
経営感覚の醸成を図るにはいかにあるべきか」
北海道富良野緑峰高等学校 教諭 森川 哲
「持続可能で多様な環境に対応したグローバル人材育成の充実
を図るにはいかにあるべきか」
北海道帯広農業高等学校 教諭 今井 直樹
「科学的な根拠を踏まえた地域資源の活用やヒューマンサー
ビス分野における創造的・実践的な人材育成の充実を図るには
いかにあるべきか」
北海道更別農業高等学校 教諭 沖山 義徳
「グローバル化への進展と地域創生に寄与できる、科学的視点
を踏まえた学校農業クラブ活動はどうあるべきか～主体的・
対話的で深い学びの実現を目指した学校農業クラブ活動指導
はどうあるべきか～」
北海道二セコ高等学校 教諭 古川 茂樹
東北支部 「主体的・対話的で深い学び」に対応した教科指導はどうある
べきか
秋田県立秋田北鷹高等学校 教諭 千葉 知明
宮城県本吉響高等学校 教諭 昆野 慶太
「社会のグローバル化に対応した安全・安心な農業教育及び関
係機関等と連携したキャリア教育の推進はどうあるべきか」
青森県立名久井農業高等学校 教諭 竹鼻 一男
福島県立岩瀬農業高等学校 教諭 金成理恵子
「生徒の実践的・体験的な学習活動を推進するための農場運営
はどうあるべきか」
岩手県立大船渡東高等学校 教諭 谷地 禎彦
山形県立庄内農業高等学校 教諭 笹原 俊明
関東支部 「特色ある教育活動について」
一園芸科活動を通して出来ること一
茨城県立石岡第一高等学校 教諭 人見 有樹
「農業でつながる」～農業体験活動と地域貢献・交流活動から
学んだこと～
栃木県立矢板高等学校 教諭 林 賢一
「創意工夫を凝らした特色ある農業教育および特色ある学校づ
くり」一群馬県における環境工学系学科・コースの取り組

について—

群馬県立藤岡北高等学校 教諭 青木栄二郎
「緑地環境科のカリキュラムを生かした進路指導について」—

「3級造園技能士」全員合格・卒業庭園」制作—

東京都立農芸高等学校 主幹教諭 捧 裕和
「農業高校の特色を活かした進路指導」

神奈川県立三浦初声高等学校 教諭 板井 時広
「農業高校を活かした進路指導について」

山梨県立農林高等学校 教諭 原 弘樹
「埼玉県食品系学科の特色ある教育活動について」

埼玉県立熊谷農業高等学校 教諭 瀧澤 里香
「教育効果向上を目指した学科の取り組み」

北信越支部 静岡県立磐田農業高等学校 教諭 新井 佳子
「未来の農業人材育成への試みと課題について」

長野県丸子修学館高等学校 教諭 山本 浩文
「地域資源を活用した農業教育の取り組みと課題について」

新潟県立加茂農林高等学校 教諭 阿部 慎
「学校設定科目など特色ある取り組みと課題について」

近東支部 福井県立坂井高等学校 教諭 黒田 一也
「栽培・飼育および流通系科目における地域資源を活用した教育実践について」

兵庫県立但馬農業高等学校 教諭 加藤 親義

京都府立桂高等学校 教諭 前田良太郎

愛知県立猿投農林高等学校 教諭 金田 達雄
「食品加工系科目における安全、安心の食の生産に向けた教育実践について」

大阪府立園芸高等学校 教諭 平尾 豪基

奈良県立磯城野高等学校 教諭 中久保美知子

滋賀県立湖南農業高等学校 教諭 岡田 充弘
「環境・ヒューマンサービス系科目における地域資源を活用した教育実践について」

三重県立四日市農芸高等学校 教諭 新美 弘毅

岐阜県立恵那農業高等学校 教諭 若葉 亮
「農業教育における技術の継承と先進農業技術の教育実践について」

愛知県立半田農業高等学校 教諭 小石 萌子

	兵庫県立播磨農業高等学校	実習担当教諭	松島 敏春
	京都府立農芸高等学校	教諭	藤田 有司
	「伝統農業とスマート農業が調和した新しい時代の農業運営について」		
	滋賀県立長浜農業高等学校	教諭	大橋 拓朗
	大阪府立貝塚農業高等学校	教諭	明道 智秀
	奈良県立山辺高等学校山添分校	教諭	山口 宏樹
	「学校農業クラブ活動における地域連携の取組について」		
	岐阜県立岐阜農林高等学校	教諭	沖本 暢敬
	三重県立明野高等学校	教諭	加藤 元子
	和歌山県立紀北農芸高等学校	教諭	萩野 貴大
中国支部	「食料供給・ヒューマンサービスにおけるグローバルな視野を持つ人材育成をめざして」		
	山口県立大津緑洋高等学校	教諭	井村 稔次
	鳥取県立智頭農林高等学校	教諭	八木 俊明
	「環境創造・素材生産・バイオテクノロジーにおけるグローバルな視野を持つ人材の育成をめざして」		
	島根県立益田翔陽高等学校	教諭	田原 伸治
	広島県立世羅高等学校	教諭	宮本 紀子
	「グローバルな視野で農業経営を実践する人材の育成をめざして」		
	広島県立西条農業高等学校	教諭	澤井 晃
	岡山県立井原高等学校	教諭	内田 泰広
四国支部	「地域林業を担う人材の育成」		
	徳島県立池田高等学校三好校	教諭	森實 秀敏
	「園芸クリエイト科の取り組みと課題」		
	愛媛県立今治南高等学校	教諭	菅 康夫
	「ふれあい市場から真清水市場へ」		
	香川県立石田高等学校	教諭	寺岡 正人
	「水稻の高品質・多収に関わる栽培生理と肥培管理技術の習得」		
九州支部	高知県立高知農業高等学校	実習助手	岡林 良
	「農薬散布ドローン（MG-1）を活用した教育活動の展開と展望」		
	福岡県立嘉穂総合高等学校	教諭	古賀 正樹
	「『作物』の授業をとおして」		
	佐賀県立高志館高等学校	教諭	白武 博義

「加世田常潤高校 食品工学科の取組」

鹿児島県立加世田常潤高等学校 教諭 北川 美子

「地域に根ざした新商品の開発について」

大分県立国東高等学校 教諭 長木 哲也

「地域と関連した本校の取組について」

長崎県立北松農業高等学校 教諭 城戸 公彦

「課題研究におけるプロジェクト学習指導の工夫～地域資源を活用した新商品開発を通して～」

沖縄県立宮古総合実業高等学校 教諭 五十嵐康二

「熊本県農業関係高校における四年制大学への進路指導の取り組み」

熊本県立北稜高等学校 教諭 中村 孝二

「農生徒の進路実現を見据えた農業教育の取組について」

宮崎県立日南振徳高等学校 教諭 木村 義隆

『農業教育研究協議会での発表』

流通・経営系部会：「流通・経営に関する科目のこれまでのとりくみとまとめ」

栃木県立栃木農業高等学校 教諭 大竹 正浩

ヒューマンサービス系部会

：『生物活用』『グリーンライフ』における地域連携事業の取り組み事例」

埼玉県立杉戸農業高等学校 教諭 奥田 文子

『教育課程専門部会誌上発表』

畜産系部会：「畜産GAP・農場HACCP導入に向けた授業への応用と認証までの課題」

森林・林業系部会：「森林・林業関連学科が抱える諸問題について」

上記調査・研究をはじめ本公益財団法人研究局では4分野の教育課程専門部会（○生物生産系部会：畜産、園芸、農業機械、○環境系部会：森林・林業、農業土木、造園、○地域資源活用：食品、流通、生活・ヒューマン、○学校経営系部会：農場運営、栽培系学科、学校特色化）を設置し、農業教育に関する調査研究を継続的に行っており、現場での農業教育実践に生かされている。

また、農業高校の特色ある取り組み、大学推薦入学に関する調査も行っている。これらの結果は農業教育研究協議会における研究発表や研究集録並びに当農場協会ホームページで公開している。

平成30年度研究報告：流通・経営系部会及びヒューマンサービス系部会の2部会が農業教育研究協議会で口頭発表。

畜産系部会及び森林・林業系部会の2部会が研究集録での誌上発表。

平成30年度調査結果：大学推薦入学に関する調査

：教育課程に関する調査

全国47都道府県375校を対象に各校の設置学科、総合学科の系列数を調査するとともに、その設置学科及び設置系列での農業科目の履修状況を調査した。

：農業関係高校における特色ある取り組みに関する調査
(研究集録：平成30年度第56号へ掲載・参照)

2) 学術及び科学技術の推進を目的とする事業

(1) 農業実験実習講習及び教員免許状更新講習

全国7地区で実施した。ただし、九州地区での実施は、当公益財団法人から文部科学省へ申請をしての実施ではなく、実験実習講習開設大学(鹿児島大学)が直接文部科学省へ申請をして実施した。受講者は110名(九州地区11名を含む)、このうち教員免許状更新講習対象者は80名であった。全ての受講者が熱心且つ意欲的に取り組んでいたとのことで全員に修了証を授与することができた。

[講習会概要と受講者数]・・・()は免許状更新講習対象者数

- ・北海道地区 「農業と環境」 帯広畜産大学 12名(8)
平成30年7月30日(月)～8月3日(金)
講師：佐藤 禎稔(教授) 仙北谷 康(教授)
河野 洋一(助教) 窪田さと子(助教)
- ・東北地区 「食品科学」 郡山女子大学 12名(8)
平成30年7月30日(月)～8月3日(金)
講師：紺野 信弘(教授) 鋤野 信子(教授)
影山 志保(准教授) 坂野 史明(准教授)
郡司 尚子(講師)
- ・関東地区 「農業と環境」 宇都宮大学 27名(23)
平成30年8月6日(月)～8月10日(金)
講師：夏秋 知英(教授) 小笠原 勝(教授)
岡田 昌司(准教授) 西川 尚志(准教授)
煉谷 裕太郎(助教)
- ・北信越地区 「農業と環境」 石川県立大学 13名(11)
平成30年8月20日(月)～8月24日(金)
講師：柳井 清治(教授) 齋藤 洋昭(教授)
長野 隆男(教授) 高原 浩之(准教授)

- 塚口 直史 (准教授) 皆巳 幸也 (准教授)
 小柳 喬 (准教授) 中口 義次 (准教授)
 大谷 基泰 (准教授) 高居 恵愛 (准教授)
- ・近東地区 「農業と環境」 大阪府立大学 21名 (18)
 平成30年8月6日 (月)～8月10日 (金)
 講師：川口 剛司 (教授) 向本 雅郁 (教授)
 山崎 伸二 (教授) 東條 元昭 (教授)
 今堀 義洋 (教授) 上田 光宏 (准教授)
 渋谷 俊夫 (准教授) 遠藤 良輔 (講師)
 上田 昇平 (助教)
- ・四国地区 「農業と環境」 高知大学 14名 (12)
 平成30年8月13日 (月)～8月17日 (金)
 講師：尾形 凡生 (教授) 河野 俊夫 (教授)
 藤原 拓 (教授) 村井 正之 (教授)
 伊藤 桂 (准教授) 松川 和嗣 (准教授)
 森 牧人 (准教授) 松本 美香 (講師)
- ・九州地区 「農業と環境」・「食品化学」 鹿児島大学 11名
 平成30年8月6日 (月)～8月10日 (金)
 講師：橋本 文雄 (教授) 高峯 和則 (教授)
 北原 兼文 (教授) 石橋松次郎 (教授)
 玉置 尚徳 (教授) 坂井 教郎 (准教授)
 下田代智英 (准教授) 紙谷 喜則 (准教授)
 濱中 大介 (准教授) 加治屋勝子 (講師)

教員免許状更新講習は6地区で実施し、更新に必要な30時間の内、選択領域の18時間分が文部科学省から認定されている。今年度も昨年同様、農業教諭以外から家庭科教諭等3名の参加があった。

(2) 免許法認定講習 (実習助手単位認定講習)・・・〈要請・協力事業〉

農業実習助手の資質並びに農業技術力の向上を図ることを目的として、当公益財団法人より東京農業大学及び北海道酪農学園大学に開講を要請し、大学と文部科学省の連携事業として実施した。

<講習会概要と受講者数>

- 東京農業大学 厚木キャンパス 受講者数 36名
 開講科目：「職業指導」・・・1単位 「農業実習」・・・1単位
 開講期間：平成30年8月20日(月)～8月25日(土) 6日間
 講師：鈴木 聡 (准教授) 平之内孝夫 (非常勤講師)

小池安比古（教授） 石川 一憲（教授）
 桑山 岳人（教授） 増田 宏司（教授）
 宮本 太（教授） 小島 弘昭（教授）
 長島 孝行（教授） 石川 忠（准教授）

○北海道酪農学園大学 受講者数 28名
 開講科目：「教育心理学」・・・1単位 「農業科教育法」・・・1単位
 開講期間：平成30年8月6日(月)～8月9日(木) 4日間
 講 師：須賀 朋子（准教授） 岡島 毅（教授）
 泉 賢一（教授） 森 志郎（准教授）

(3) 農業教育功労者表彰及び感謝状の贈呈

平成30年6月19日(火) 農業教育功労者審査会を開催。本年度は該当候補者のいなかった北海道支部を除く7支部から推薦された候補者135名について、農業教育功労者規程に基づいて厳正に審査を行った。その結果、本年度は、不合格該当者は無く、推薦された135名全員が授与対象者となった各支部毎の結果の詳細は以下の通りである。

[平成30年度農業教育功労者表彰審査結果]

支 部	申請者数	合格者数	不合格者数
北海道	0	0	0
東 北	12	12	0
関 東	30	30	0
北信越	10	10	0
近 東	35	35	0
中 国	16	16	0
四 国	8	8	0
九 州	24	24	0
合 計	135	135	0

・審査委員

日置司明 橋本倉司 風間達夫 田原良敏 田中平一
 庭野省三 戸塚厚生 松沢利充 末松茂孝 鈴木 隆
 大木高之 長島 肇 神谷晶平 矢田部正弘

・表 彰：本会規定により平成30年度各支部大会で表彰した。

(4) 「第2回和牛甲子園」開催の支援・・・(連携後援事業)

全国農業協同組合連合会が、全国の農業高校で和牛の飼育実習を行っている生徒たちに目的意識や学習意欲の高揚、将来の畜産業界人の育成を目的として実施している和牛甲子園を後援した。その概要は以下の通りである。

・日 程：平成31年1月17日(木)・18日(金)

1日目：和牛肥育体験発表会 2日目：和牛枝肉共励会

- ・会場：フクラシア品川クリスタルスクエア
東京都中央卸売市場食肉市場
- ・出場校数：11県 23校 出品頭数：28頭
- ・大会結果

[総合評価部門]

最優秀賞・1校：岐阜県立飛騨高山高等学校

[取組評価部門]

最優秀賞・1校：鹿児島県立市来農芸高等学校

優秀賞・2校：岩手県立水沢農業高等学校
：岐阜県立飛騨高山高等学校

優良賞・3校：岐阜県立加茂農林高等学校
：長崎県立諫早農業高等学校
：鹿児島県立鹿屋農業高等学校

[枝肉評価部門]

最優秀賞・1頭：鹿児島県立曾於高等学校

優秀賞・2頭：栃木県立那須拓陽高等学校
：岐阜県立飛騨高山高等学校

優良賞・3頭：鹿児島県立鹿屋農業高等学校
：鹿児島県立市来農芸高等学校
：鹿児島県立市来農芸高等学校

審査の結果、入賞校は上記の通りとなったが体験発表では何れの高校も自分たちが日頃実践してきた取り組みや内容を解りやすく纏め、それをパワーポイントや配布資料で説明するなど発表にも様々工夫が見られ若者らしく潑刺とした発表であった。尚、入賞校には当公益財団法人より賞状を授与した。

2、農業教育・環境教育に関するフォーラム、シンポジウムの開催（共催）事業

フォーラム並びにシンポジウムの開催は、従来から他団体との共催事業として実施してきたが、30年度においては連携団体との間で実施内容及び開催時期について調整がつかず下記シンポジウム1回のみ開催に留まった。

○ 柏の葉オープンディスカッション・・・農業高校支援機構と共催

期日：平成31年2月3日（日）13：00～16：30

会場：東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト1F多目的ホール
（東京大学フューチャーセンター）

テーマ：「われわれはどこを目指しているのか？」

キーワード：食と農と祭

参加者：地域一般住民、学生、大学教職員、当協会会員

ディスカッションメンバー

古在 豊樹：NPO植物工場研究会会長、元千葉大学教授

徳山 郁夫：カルネット理事

尾田 正二：東京大学教授

野田 勝二：千葉大学教授

横山 和成：(株) DGCテクノロジー

今年も限られた短い時間の中での意見交換であったが、一般の参加者から最近の子供たちは生活の便利さと物や食べ物の豊かさを満喫し、農作業の大変さや辛さ、またそれを通して得る収穫の大きな喜びなどを実感する機会も無い生活を送っている。このような状況の中では、若者や子供たちは食と農との関連は考えられても祭りに関連付けて考えることはなかなかできないのではないか。食と農と祭りは日本の生活文化や習慣形成の基盤となっていることを多くの人たちに伝えるためにも、このような催しを継続して欲しいとの意見を頂くなど極めて有意義で盛り上がった会であった。

3、地域文化（文化・芸術・文芸）振興に関する事業

1) 全国農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

日本農民文学会との共催によるエッセイコンテストを実施した。今年度で10回目を迎えた。全国の農業関係高校より各校で厳選された31篇の作品の応募があり厳正な審査の結果、以下のように入賞者が決定した。入賞者には、賞状並びに賞品を授与した。

[平成30年度 審査結果]

◎最優秀賞：『今こそ創る 未来の農業観』

静岡県立下田高等学校南伊豆分校 和泉莉梨樺

○優秀賞：『有機農業の普及を目指して』

栃木県立宇都宮白楊高等学校 綱川 真衣

○優秀賞：『ポリバレンタな農業経営者として』

群馬県立利根実業高等学校 石井 直樹

○優秀賞：『涙に見えた私の将来展望』

長野県立下伊那農業高等学校 知久宗一郎

○優秀賞：『美しいもの』

愛媛県立野村高等学校 友松 瑠生

○優秀賞：『スプラウトの小さな芽が叶えた私の夢』

長崎県立諫早農業高等学校 吉岡 颯斗

[審査委員]

・公益財団法人全国学校農場協会 理事長 日置 司明

・全国高等学校農場協会 会長 斎藤 義弘

- ・日本棚田学会会員 花野 耕一
- ・農民文学会会長 野中 進
- ・当公益財団法人理事長 日置 司明
- ・当公益財団法人理事 庭野 省三

4、広報活動並びに機関誌・図書等の刊行に関する事業

1) 広報活動

当公益財団法人の広報活動は、新聞並びにホームページによる。

- ・「公益財団法人全国学校農場協会新聞」の発行

年4回発行して各会員に郵送すると共に関係省庁や関係団体等へ配布している。主に当公益財団法人の事業や活動等についての報告・予定及び各支部の活動状況の紹介が中心である。

- ・ホームページによる広報

当公益財団法人の会務・事業、会計内容を含む公益財団の概要を掲載すると共に会員及び一般の方に対して農業並びに農業教育に関する研究成果の公表、研究会・シンポジウム・講演会等の告知、協力他団体との連携と情報公開などに努めている。

2) 研究集録・図書等の発行に関する事業

- ・当公益財団法人研究局並びに全国高等学校農場協会振興局での調査・研究の成果を研究集録にまとめて発行し、関係諸機関・関係団体をはじめ研究団体や会員校等広く一般に配布並びに提供している。
- ・これまで全国高等学校農場協会で農業教育補助教材として刊行していた「農業学習ノート・トウモロコシ」、「農業学習ノート・ダイコン」及び「実習手帳」を平成30年度より公益財団法人全国学校農場協会へ公益事業として移行して刊行。販路も拡大して農業高校に学ぶ生徒たちの学習成果の向上を図る上で大きく役立てることができた。

Ⅲ公益財団法人理事会・評議員会の開催状況

1) 理 事 会

- ・平成30年5月9日（金） 於 農場協会々館
 - 平成29年度事業報告並びに会計決算報告（承認）
 - 平成30年度事業計画並びに収支予算案（承認）
 - 理事辞任に伴う後任理事の補充に関する件（承認）
 - 定款の一部改定と内閣府への届出に関する件（承認）
 - 図書刊行事業導入と定款の位置づけに関する件（承認）
 - その他連絡・報告事項7件
- ・平成30年8月24日（金） 於 農場協会々館
 - 平成30年度定時評議員会審議経過報告

- 平成30年度事業並びに予算執行状況と監査結果について
- 公益財団法人「定款」の一部変更と当協会「給与規定」の検討に関する件
 - ①当公益財団法人各事業年度の公告方法の変更（承認）
 - ②評議員会の開催時期の変更（承認）
 - ③協会「給与規定」の検討（承認）
- その他連絡・報告事項3件
- ・平成30年11月7日（水） 於 農場協会々館
 - 平成30年度第55回農業教育研究協議会「講演」事業に関する件（承認）
 - 「定款」の一部変更及び「給与規定」の検討に関する件を議題とする臨時評議員会の審議経過報告（理事会で承認された原案を承認）
 - 平成30年度事業「オープンディスカッション」の開催について
 - 日 時：平成31年2月3日（日） 13：00～16：30
 - 会 場：柏の葉・東京大学フューチャーセンター
 - 令和元年度事業について
 - ア、第68回農場協会全国大会並びに研究協議会について
 - ・期 日：令和元年6月6日（木）・6月7日（金）
 - ・会 場：星陵会館
 - イ、令和元年度実験実習講習会並びに教員免許状更新講習について
 - ・実験実習講習会に教員免許状更新講習を含む地区（4地区）
 - 北海道地区 関東地区 近東地区 中国地区
 - ・実験実習講習会のみ地区（2地区）
 - 東北地区 九州地区
 - ※教員免許状更新講習の対象者
 - 高等学校：農業・家庭・理科
 - 中 学 校：技術家庭・理科 （栄養教諭）
 - ウ、令和元年度免許法認定講習（農業実習助手単位認定講習）
 - 公益財団法人全国学校農場協会として東京農業大学及び北海道酪農学園大学の2大学へ開講を要請。現在2大学から文部科学省へ開講を申請中。
 - その他 特になし
- ・平成31年2月8日（金） 於 農場協会々館
 - 平成30年度事業中間報告
 - 平成30年度会計収支中間報告
 - 2019年度事業計画（案）、収支予算書（案）について
 - 当農場協会「就業規則」及び「給与規定」の一部変更に関する件
 - 理事改選に伴う退任理事の後任理事選定に関する件

- 平成25年～29年度に実施した連携事業の検討見直しの結果に関する件
- 監査報告：監事より会計及び服務監査結果の報告がなされた。
- その他連絡・報告事項2件

平成31年3月22日（金） 於 農場協会々館

- 2019年度事業計画（案）に関する件（承認）
- 2019年度収支予算書（案）に関する件（承認）
- 理事退任に伴う後任理事の選定に関する件（承認）

[退任理事]

氏名	就任期間
田中 平一	平成25年4月1日～平成31年3月31日・・・(3期) 退任理由：一身上の都合による
庭野 省三	平成27年4月1日～平成31年3月31日・・・(2期) 退任理由：一身上の都合による

[後任理事候補者]

氏名
平柳 伸幸

都歴：東京都立三宅高等学校
：東京都立瑞穂農芸高等学校
：東京都教育庁指導部指導主事
：東京都立農芸高等学校副校長
：(現) 東京都立農業高等学校副校長

協会歴：入都以来協会員として積極的に協会活動に協力

佐藤 敏之

都歴：東京都立農業高等学校
：東京都立瑞穂農芸高等学校
：(現) 東京都立農業高等学校主幹教諭

協会歴：平成23年4月1日～平成27年3月31日までの4年間常任理事として積極的に活動、このうち後半の2年間は関東支部長として活躍。

本議案に関し慎重に審議した結果、上記2名の候補者を出席理事全員一致で後任理事候補者として選定した。ついては、この2名の候補者を令和元年度評議員会に提案し承認を得ることを理事全員で確認した。

- その他連絡・報告事項2件

2) 定時評議員会

・平成30年6月15日(金) 農場協会々館

- 平成29年度事業報告並びに収支決算書に関する件(承認)
- 平成30年度事業計画案並びに収支予算案に関する件(承認)
- 定款の一部改訂に関する件

平成30年5月9日(金)開催の第1回理事会で承認を得た原案を提示、審議の結果下記の通り承認を得た。

- ①当公益財団法人各事業年度の公告方法を変更する件・・・承認
 - ②定時評議員会の開催時期を変更する件・・・・・・・・・・・・承認
 - ③当協会「給与規定」の検討、見直しの件・・・・・・・・・・・・承認
- 公財役員(理事)辞任に伴う後任理事の補充に関する件

[退任理事]

氏名	就任期間
森田 恒夫	平成25年4月1日～平成28年11月30日 (平成28年12月1日～平成29年3月31日の間、理事1名欠員)

退任理由：一身上の都合に寄る

[後任理事候補者]

氏名
一ノ瀬 淳

都 歴：東京都立大島高等学校
：東京都立農林高等学校
：東京都立青梅総合高等学校主幹教諭
：(現)東京都立瑞穂農芸高等学校副校長

協会歴：入都以来協会員として特に協会の研究活動に積極的に協力
本定時評議員会に、平成30年5月9日(金)開催の第1回理事会で承認を得た上記後任理事候補者を原案として提示、慎重な審議の結果出席評議員全員一致で一ノ瀬 淳候補を後任理事に選定した。

- 「農業学習ノート」及び「実習手帳」の刊行・販売に関する件

これまで全国高等学校農場協会が農業教育補助教材として発行していた農業学習ノート「トウモロコシ」並びに「ダイコン」と「実習手帳」の刊行事業を平成30年度より当公益財団法人の事業として移行・導入する件(理事会では、平成29年度第5回理事会並びに平成30年度第1回理事会で審議・承認済)について審議。出席評議員全員一致で承認された。

- その他

- ・農業教育功労者審査委員会について(6月19日・火)
- ・研究局教育課程専門委員会総会並びに部会報告(5月9日・水)

- ・農業実験実習講習会について
- ・教員免許状更新講習について
- ・免許法認定講習について
- ・農業関係高等学校エッセイコンテストについて
- ・シンポジウムの開催について
- ・農業高校生フォトコンテストについて
- ・農業系高校3団体（農業教育課題検討会議）の審議経過について

3) 臨時評議員会

・平成30年9月21日（金） 農場協会々館

○定款の一部変更に関する件

本件につきましては、前事業年度終了後の反省・改善事項として挙げられたもので、内閣府への届出、登記手続き等を進める上からも早急に対応すべき案件であるため本日臨時評議員会を開催し審議をお願いする次第である。

[改訂案]

改	正	現	行
第5章「評議員会の（開催）」	第5章「評議員会の（開催）」	第5章「評議員会の（開催）」	第5章「評議員会の（開催）」
第16条 評議員会は、定時評議員会として 毎事業年度終了後から6月までに 1回開催するほか、必要がある場合に開催する。	第16条 評議員会は、定時評議員会として 毎年度6月に 1回開催するほか、必要がある場合に開催する。	第16条 評議員会は、定時評議員会として 毎年度6月に 1回開催するほか、必要がある場合に開催する。	第16条 評議員会は、定時評議員会として 毎年度6月に 1回開催するほか、必要がある場合に開催する。
第9章「公告の方法」	第9章「公告の方法」	第9章「公告の方法」	第9章「公告の方法」
第37条 この法人の公告は、電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。	第37条 この法人の公告は、電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。	第37条 この法人の公告は、官報に掲載する方法による。	第37条 この法人の公告は、官報に掲載する方法による。

[変更する理由]

（第5章・第16条の変更）

当公益財団法人の賛助会員である全国高等学校農場協会の会員約240名が参集して毎年6月第1週の木・金に全国大会・研究協議会を開催する。この機会に出席している賛助会員に対し、公益財団法人からその年度の役員・事業計画・収支予算等の報告をするわけであるが、当公益財団法人の定款では、評議員会の開催は6月に1回開催することが規定されている。そのために全国高等学校農場協会の全国大

会・総会で報告する公益財団法人の役員・事業計画・収支予算等は評議員会の承認を経ていないものになってしまう不都合を生じることになる。この不都合を解消するため、定款第5章「評議員会の（開催）」・第16条を上記のように変更する。

（第9章・第37条の変更）

各事業年度の公告は、定款により「官報に掲載する方法」で行うことになっている。しかし、当公益財団法人はホームページを開設しており経費削減を図るためにもこのホームページによる電子公告に変更するため、定款第9章「公告の方法」・第37条を上記のように変更する。

上記案件の2条項について慎重に審議した結果、特に異議・意見等もなく出席評議員全員一致で承認された。

○連絡・報告事項

- ・第4回農業関係高等学校農業・農村フォトコンテストについて
- ・全国高等学校農場協会各支部大会について（報告書参照）

○その他

- ・中村 桂子評議員より、平成29年度は「農業女子フォーラム」について検討を行ったとのことであるが、これからの我が国の農業には、女性が果たす役割が極めて重要となってきます。今だからこそ女性の農業への関心の啓発と就農意欲を高めることが必要です。

その為にも就農女子が自分の農業体験を積極的に発表できる「農業女子フォーラム」のような事業を実施することは大きな意義があると思います。是非継続して実施して欲しいと思います。との意見が出された。

この意見に対し、事業担当鈴木 隆常務理事から、理事会としても公益財団としての中核的事業として実施できるよう検討したいとの回答がなされた。

4) 監査会

平成30年度は5月9日、8月24日、11月7日、平成31年2月8日に実施。理事会で予算・事業・サービスについて監査報告。

尚、平成30年度監査については、理事会開催当日に監査を行い、その都度理事会の席上で岡本監事または渡邊監事から予算執行・決算・事業・サービスともに適正であるとの報告を得た。

IV収益事業

1) 家賃収入事業

当公益財団法人は、所有ビル1階部分を2店舗（white space labo・和）に賃貸した。

